

映画

絵本の里が紡ぐ、心優しき人々の物語。

じんじん NEWS

(題字・あべ弘士)

新春号

2015・1・25

■映画「じんじん」製作委員会 / 事務局 011-252-3828 (プリズム)

WEB <http://www.jinjin-movie.com/> Twitter @jinjin_movie Facebook <http://www.facebook.com/jinjinmovie>

全国500ヶ所、20万人！さらに前へ！



2,000人を超えた足利上映会 (2014. 2. 10~2. 11)

2013年5月にスタートした、映画『じんじん』の、スローシネマ方式による全国上映運動は、1年8ヶ月を経て2015年1月15日現在、劇場21ヶ所・試写会474ヶ所・非劇場352ヶ所・団体鑑賞46ヶ所となり、観客数は約18万人。4月末迄に約50ヶ所の上映予定が組まれております。

映画『じんじん』は、公開から丸2年で500ヶ所、20万人に到達致します。

昨年は、5月末に「第13回イマジジン・インディア国際映画祭マドリッド」(スペイン)において、『じんじん』が作品賞・主演男優賞がノミネートされ、見事に大地康雄さんが、最優秀主演男優賞を受賞。

また、9月には厚生労働省社会保障審議会の児童福祉文化財に推薦されました。

こうしたニュースを受けて、全国各地で上映会が取り組まれた結果、500ヶ所・20万人という数字につながりました。今年はさらに一歩前へ。700ヶ所・30万人の観客動員を目指します。

道内95ヶ所、4万5千人鑑賞。10万人へ！

道内での上映は、179市町村の中で、95ヶ所・約45,000人の皆様にご覧頂くことが出来ました。

足寄、美幌、弟子屈、今金町などは、町教育委員会などの行政と、民間の団体とが実行委員会を立ち上げ、小・中・高校の学校団体鑑賞と地域上映を実施。大きな成長を上げました。

今年も全道市町村上映、10万人を目指し、各地にお届け致します。



真狩村読書推進月間2014(11/6~12/7)
[主催] 真狩村子どもたちの読書活動推進委員会

老若男女、感動の声が続々と…

僕は映画をあまり見たことがなかったので、この映画「じんじん」はすごくおもしろく感動しました。本の「クロコダイルとイルカ」を実際にゆっくり見てみたいと思いました。「じんじん」に関わってくださった皆さんに感謝したいと思います。これからも、この活動を頑張ってほしいと願ってます。最高の映画でした。

(男子中学生・2年生)

私は「じんじん」を見て、親子の絆がとても大切なものだということを改めて実感しました。どんどん作品に引き込まれ、特に親子のすれ違いに「私だったらこうするのに…」と上手くいかない展開にずっとハラハラしていました。作中に、涙を流す様なシーンが多々あり、その中でも私は「クロコダイルとイルカ」の内容と、その後の彩香の変化に感動し、泣きそうなのをこらえていました。これからは私も家族との接し方を考え直し、家族を大切に暮らしていきたいと思います。

(女子中学生・1年生)

北海道は自然が豊かで、こんなにキレイなんだとこの映画を見て改めて思った。子は親を尊敬し、親は子がやっぱり大事で、離れて暮らしたとしてもこの関係はかんたんにくずれるものではないんだととてもあたたかい気持ちになりました。一緒に親と暮らしていることがあたりまえとおもわずに、これが幸せなんだとかみしめて、親に感謝の気持ちを忘れずに、すごしていきたいと思いました。

(女子中学生・3年生)

最初は、正直興味をひかれなかったが、映画を見るととてもおもしろく、映画に夢中になりました。私の家も、離婚していて父がいないので、共感できる部分が多くあり、娘の父への想いなど少し理解しながら見る事ができたので、自分の事など考えながら見れて良かったです。そして、剣淵町のように足寄もなにか活性化できるような事があればいいなと思いました。この映画を見て、色々な事を改めて考えたり、絵本を通して想いを伝えることで、想いの伝え方にも色々あることがわかったので、「じんじん」を見れて、とても良かったです。

(女子高校生・1年生)

「じんじん」を観て感じたことは、やっぱり自分の両親は大切にしなければいけないと感じました。今は親のことを良く思えなくても、大人になっていつかそのありがたみがわかる日が来るのだということを感じました。だから、今からでも遅くはないと思うので、親にたいしての言葉遣いを良くしたり、態度を良くしたりして、自分が早く親から自立できるような準備などが必要と思いました。

(男子高校生・3年生)

大地さん南木曾中学校を訪問！！



昨年12月7日に、長野県南木曾町で行われた『じんじん』上映会は、南木曾中学校3年生の23名が実行委員となって開催されました。上映会開催のきっかけは、2年生のときの総合学習の一環で、自分たちの住む地域について学ぶ中、南木曾町にも木曾谷地域全体にも「公共図書館」が無い事で、「町に図書館を作りたい！！」というテーマが生まれ、担任の先生を通して『じんじん』を知りました。

中学生が主体となり、『じんじん』上映会をPRの場にしようと…と試写会を開催し、南木曾町長も全面バックアップを確約。保護者もサポート役として集まり、上映準備がスタートした

直後の7月9日、南木曾町を襲った大雨災害により中学生（1年生）のひとりの尊い生命が犠牲になりました。

この悲しい出来事で、一時上映中止の案も出ましたが、新聞でも暗い記事ばかりで、「こんな時だからこそ明るい話題がほしい！」と予定より遅れて、足掛け2年がかりで上映の開催にこぎつけました。

「上映会が町を元気にする」

映画『じんじん』が全国で展開するスローシネマのコンセプトを、まさに体現した上映会となりました。

この取り組みを聞いた企画・主演の大地康雄さんは、「ぜひ舞台挨拶に伺い、生徒の取り組みにエールを送りたい！」と南木曾町を訪れ、3回上映の舞台に立ち、撮影時のエピソードなどを披露。

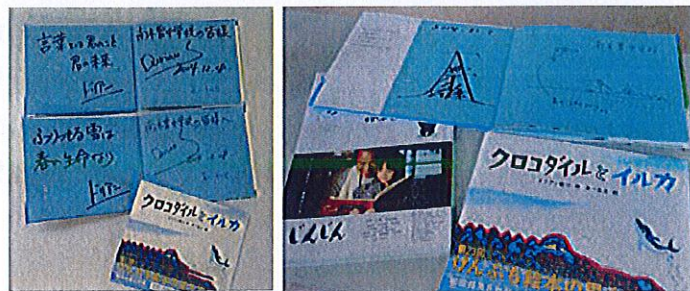
今回の中学生の取り組みに、作家のシドニー・シェルダンの「良い本に出会うと人生が開ける」という言葉を挙げて、力強いエールを送りました。南木曾町は人口4,400人余りの長野県下では最も人口の少ない町ですが、この日の来場者は856人！全町民の5人に1人が観て下さった上映会でした。

(南木曾町上映会の詳しいレポートは、『じんじん』公式ブログ <http://ameblo.jp/jinjin-movie/> をご覧ください。)

賛同の輪が広がって(あべさん、ドリアンさん)

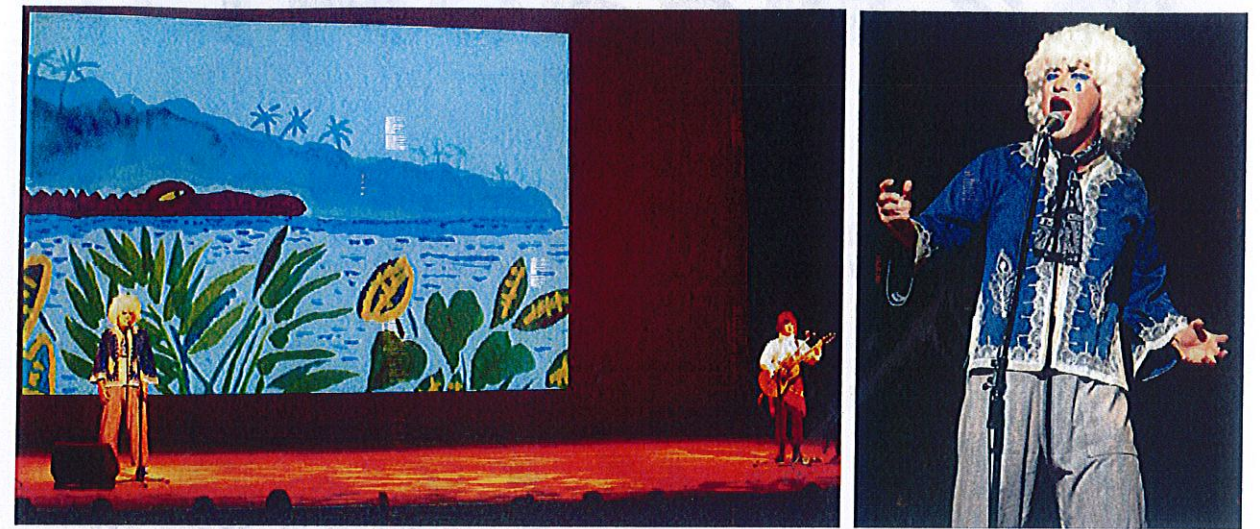
南木曾中学校23名の「町に図書館を…」という熱い思いは町民ばかりでなく多くの人の心に響きました。剣淵町からは当日に祝電が送られました。また、製作委員会事務局を通して伝え聞いたあべ弘士さんは、舞台挨拶には行けないけれど…と「クロコダイルとイルカ」2冊にサインをして、大地さんに“襷”をつなぎ、上映会当日に大地さんのサインを入れて直接贈呈されました。

また、昨年暮れに札幌でライブ「アルルカン・ヴォイス・シアター」を上演したドリアン助川さんも、この話を聞き、「喜んで賛同します。いつか南木曾に行ってライブを開きたい！」と、サインと「言葉とは君のこと、君の未来」「ふりつもる雪は、春の生命なり」というメッセージを書き添えて2冊を事務局に託しました。この絵本は、昨年末に南木曾中学校に手紙と、若干の資料を添えてお送りしました。事務局一同、陰ながら南木曾図書館建設の実現を応援しております。



ドリアン助川さん 魂の叫び!

『クロコダイルの恋』アルルカン・ヴォイス・シアター in 札幌



『じんじん』NEWS12号でもお伝えした絵本「クロコダイルとイルカ」の原作者、ドリアン助川さんのステージ「アルルカン・ヴォイス・シアター」が昨年暮れの12月17日、札幌市内で開催されました。

演目の「クロコダイルの恋」は、映画『じんじん』の中に登場する絵本「クロコダイルとイルカ」(絵・あべ弘士)の原作であべ弘士さんの絵がステージに大きく写し出される中、約50分のステージはドリアンさんの圧倒的な歌声、息を呑む迫力と、ギタリスト・ピクルス田村さんの奏でるやさしいメロディーとが相まって、切ないエンディングに約150名の親子連れは、時を忘れてステージに酔いしれていました。

ステージ終了後、「クロコダイルの恋」CD発売を記念して、サイン会が行われ、絵本、CDを手にしたファンの長蛇の列が出来ました。

ドリアンさん曰く、「お呼びが掛かれば、全国どこへでも出掛けています。」「学校などでも是非上演したいですね!」

CD「クロコダイルの恋」新発売!

ドリアン助川さんが2009年から上演している舞台「クロコダイルの恋」は、アルルカン・ヴォイス・シアターとしては6年ぶりのアルバムです。語りと歌とギターで50分です。

絵本の里けんぶち絵本の館、『じんじん』北海道上映会(各地)の会場、及びプリズムで取り扱っています。(税込2,000円)

※全国のファンの皆様には、アルルカン・ヴォイス・シアターのオフィシャルサイト (<http://arlequins-vt.com/>) で1月9日よりネット販売を行っています。



映画「じんじん」製作委員会

事務局 / 〒006-0031 札幌市中央区北1条東13丁目1-79 (プリズム)

TEL / 011-252-3828 FAX / 011-252-3848 (月~金 10:00AM~18:00PM) Email / eiga@eizou.com